

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070103373		
法人名	有限会社ライフパートナー		
事業所名	グループホームすずらん内原		
所在地	和歌山県和歌山市内原634-1 (電話) 073-447-2940		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成19年8月15日	評価確定日	平成19年9月11日

## 【情報提供票より】(平成19年8月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	10 人, 非常勤 2人, 常勤換算 10.2

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要( 8月 3日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田畑内科
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は併設のデイサービスと2ユニットのグループホームの3つの単位で構成され、渡り廊下で行き来は容易で渡り廊下に事務スペースを設け目配りのし易い設計といえる。理念として所長以下介護職員が入居者を大切に思う心をベースに入居者本人を中心に据えたケアを日々実践している。職員の間関係もいたって良好でそれがホーム内の柔和な雰囲気を作り出していた。また介護職員の研修の機会も確保され、今年度より始まった他グループホームとの相互実習にも積極的に参加するなど、経営側・現場側一体となってケアの質向上に努めている様子をはっきりと感じ取れた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	3年前の前の外部評価にて各入居者の家族に対する「たより」等の発行を助言され、以来、毎月各入居者の家族向けに直筆での手紙を発送している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に記していた通り、理念に沿い本人に沿った支援を毎日遂行しており、それらを継続して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はグループホーム開設以来まだ開催されていない。経営者・現場職員一体となって開催に向けての具体的な検討を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付に関する事項をお知らせするのはもちろんの事、苦情・意見を受け付ければ定例ではなく随時小さな規模での会議をもち、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設は新興住宅地の中にあり昔ながらの近所付き合いが困難な状況下ではあるが、毎年夏にホームの敷地内で夏祭りを開催し、近所住民などたくさん集まっている。また近隣小学校の行事(運動会など)に参加するなど地域に溶け込む取り組みを模索している状況である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を中心に据えた理念を掲げ、所長以下現場職員で共有し日々のケアに活かしている。具体的には経営者・現場職員が毎月会議を開いたり、日々の業務で主任や所長に何でも相談できる体制・雰囲気を作り上げ、理念の実践につなげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者・現場職員が毎月会議を開き、また日々の業務で何でも相談し助言を受けられる体制・雰囲気を作り上げる事で理念から逸脱しないケアの実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年夏に夏祭りを開いて近隣住民との交流を図っており、近くの小学校の行事(運動会など)への参加を検討するなど模索が続いている。	○	ホームに来てもらう形と、ホームから地域に出向いていく形の両方を模索・実践し、近隣地域との繋がりを一層深める取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価にて持ち上がった点を見直し、入居者ごとの毎月の直筆手紙送付を実現させている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議そのものがまだ開催されていない	○	第一回の開催が労力を最も要すので、日々の業務の加えて会議の開催を働きかけるのは難しい面もあるが、経営者・現場職員一体となって開催に向けての具体的な検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市役所職員との関わりは手続き関係・申請関係以外はまだない。	○	運営推進会議の開催を皮切りに、市役所との連携で何が可能になるのか、その為(この)のような取り組みが求められるか、まずは運営推進会議開催を目指される事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	入居者ごとに毎月直筆の手紙を家族宛に送付している。また、リビングルームの様子を家族に伝えるためにルームの天井にカメラを設置し、インターネット中継を行っている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見・苦情等が発生すれば定例ではなく随時話し合いをもち、必要に応じて経営者と共に改善に取り組んでいる。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	経営者は人事異動に伴う入居者への負担について十分に理解しており、事業所内での(新人の入社を除いて)人事異動は殆ど行われていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	新入社員に対しては2～3ヶ月の間は主任をリーダーとして現場職員が相互に現場にて研修を行っている。初めて宿直に入る場合は主任が付き添っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	今年度よりグループホーム連絡協議会の調整のもと、他グループホームとの相互実習(職員同士の一時的なトレード)に参加し、今後も積極的に参加するとの事。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居者については特に本人に対し、徐々に馴染める様出来るだけ本人に寄り添った形でケアを行っている。一緒に外出し自宅を見に行く事もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相手が重度の入居者であっても熱心に話しかけ、家族の一員であるかのように接していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に沿った支援を行うという理念のもとで一人ひとりの希望や思いの把握に努め、日々支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては経営者・職員で共有し、家族の意見も取り入れ、実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を作成し職員で共有し、見直しの時期には再度検討し家族の意見も取り入れた上で見直しの計画を作り、実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでの行事に事業所を利用するのはもちろん、併設のデイサービスとの往来も容易であり、また経営者側の考え方として事業ごとにはっきりと区切った体制を取るのではなく、お互いに協力し合う体制を取る事を重視している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が週に2回往診に訪れていて適切な医療が受けられている。また個人の主治医との関係も大切にされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期への対応については、日々の業務に加えて常に職員・医療スタッフ間で話し合いを続け、その人を中心に据えた上で対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	経営者・現場職員ともに現場・事務所などでの入居者のプライバシーへの配慮は欠かしていない。排泄・入浴の介助に関してもそれらがよく分かる対応をしていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の用意、散歩など日々の生活については本人のペースを第一に考え、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の準備、食事、片付けに至るまで、入居者本人の自力を活用しつつ、職員が一体となって支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	保清面での配慮から入浴を勧める方向で声かけをしているが、基本的には毎日入るも一日おきに入るもその人のペースに合わせている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者ごとに生活歴を吟味して、逐一对応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の施設からの出入りは自由にしてもらい、入居者の体調や天気なども考慮した上で介助が必要な場合は対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防当局の立会いの下で避難訓練を実施しているが、夜間などスタッフの手薄な時間帯に適切に対応できるか、いざという時にまた訓練と実践のギャップを埋められるか、また火災や地震のみならず洪水や津波など様々な形態の災害に適切に対応できるかという不安感はある。	○	災害が夜間であった場合、職員も少なく事業所だけでは対応が難しいと考えられますので、日頃から地域住民の協力が得られるような関係づくりができることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	原材料から調理の方法に至るまで高齢者に配慮したメニュー・調理であり、残さず食べていた入居者が殆どであった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	保清面を確保しつつも綺麗過ぎず、生活感を醸し出すような家具等の配置が成されており、工夫されている事が分かる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはその人ごとに持ち込みの家具等があり、また転倒のリスクを考慮して床で就寝してもらうなどの個別の配慮も効いている。		